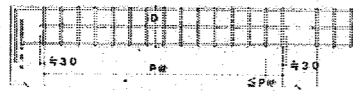


7. 2 あばら筋の配筋

(1) 間隔が一定で、ハンダのない場合



- あばら筋は、柱間の位置から取り付ける。
- 図中のP等は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6 あばら筋の配筋(その1)

(2) 間隔が一定で、ハンダがある場合



- あばら筋は、柱間の位置及びハンダに切り替わる位置から取り付ける。
- 図中のP等は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7 あばら筋の配筋(その2)

(3) 梁の幅で間隔の異なる場合

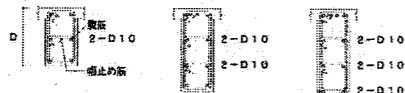


- あばら筋は、柱間の位置から取り付ける。
- 図中のP等、P'等は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8 あばら筋の配筋(その3)

7. 3 小梁主筋の継手、定着及び余長

(a) 連続小梁の場合

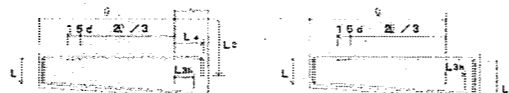


- 図中に継手を受ける場合の継手長さは、150mm程度とし、柱等へののみこみ長さは図7.6による。
- 止めの長及び受け用止めの長は、D10-1,000程度とする。

図7.9 継手及び止めの筋

7. 4 片持梁主筋の継手、定着及び余長

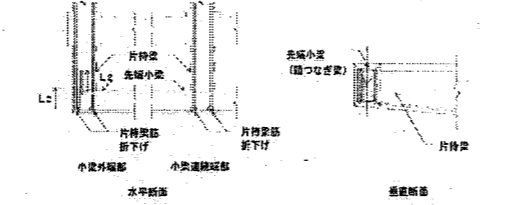
(a) 先端に小梁のない場合



- 印は、余長位置を示す。
- 先端の折曲げの長さは、受けいからかり厚さを抜いた長さとする。
- 図示のない事項は、7.1による。

図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

(b) 先端に小梁がある場合



- 図示のない事項は、(a)による。
- 先端小梁筋の定着は、片持梁内に水平定着する。
- 先端小梁の定着は、片持梁の先端を貫通するとし、図7.10による。

図7.13 片持梁主筋の定着

8 壁及びその他の配筋

8. 1 壁の基準配筋

(a) 壁の基準配筋は表8.1により、種類の適用は構造図による。

表8.1 壁の基準配筋

種類	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200mmシングル	120
W15A	D10-150mmシングル	150
W15B	D10-100mmシングル	150
W18A	D10-200mmダブル	180
W18B	D10-150mmダブル	180
W20A	D10-200mmダブル	200
W20B	D10-150mmダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(b) 片持スラブ梁部を受ける壁の基準配筋は表8.2により、種類の適用は構造図による。

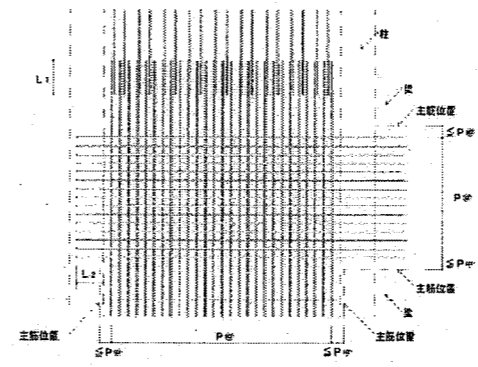
表8.2 片持スラブ梁部を受ける壁の基準配筋

種類	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	隅筋の配筋種類 (表10.1)
KW1	縦筋	D10-200mmダブル	KA1
	横筋	D10-200mmダブル	KA3
KW2	縦筋	D10-150mmダブル	KA2
	横筋	D10-200mmダブル	KA4

(注) 隅筋は、隅部の外側に配筋する。

8. 2 壁の継手及び定着

(a) 壁の継手及び定着の一般事項



- 図中のP等は、特記された壁筋の間隔を示す。
- 壁筋の折曲げの長さは、受けいからかり厚さを抜いた長さとする。
- 1のフックなし場合は継手長さを4倍とし、40d (軽量コンクリートの場合は50d) とする。
- 止めの長さ、縦筋ともD10-1,000程度とする。

図8.1 壁の配筋

8. 3 壁の交差部及び隅部の配筋

(a) 壁の交差部及び隅部の配筋は図8.2による。

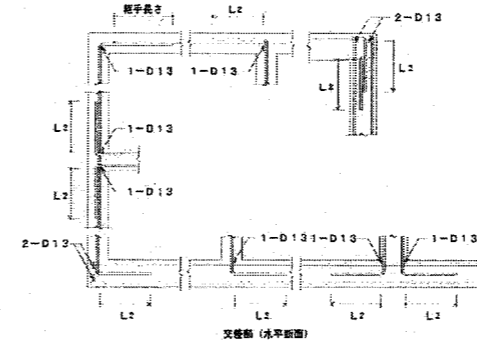


図8.2 壁の交差部及び隅部の配筋

8. 4 壁の開口部補強

(a) 耐力壁をなく開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。

表8.3 壁開口部補強筋(A形)

壁の種類	補強筋	斜め
W12, W15	1-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋(B形)

壁の種類	補強筋	斜め
W12, W15	2-D13	1-D13
W18, W20	4-D13	2-D13

(b) 壁開口部補強筋の定着長さは図8.3による。

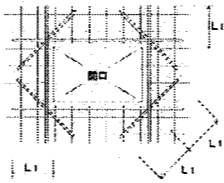


図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

8. 5 パラベット

(a) パラベットの配筋は図8.4による。

(b) コンクリート厚、壁筋、横筋の長さ及び間隔は構造図による。

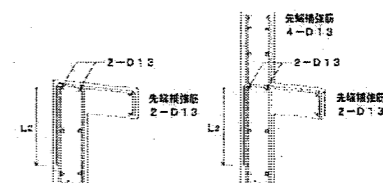


図8.4 パラベットの配筋

9 スラブの配筋

9. 1 スラブの基準配筋

(a) スラブの基準配筋は表9.1により、種類の適用及びスラブ厚さは構造図による。

表9.1 スラブの基準配筋(S形)

配筋種類	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配筋筋) 全域	配筋種類	短辺方向(主筋) 全域	長辺方向(配筋筋) 全域
S1	D13-100mm	D13-100mm	S8	D10, D13-150mm	D10-180mm
S2	同上	D13-150mm	S9	同上	D10-200mm
S3	同上	D10, D13-150mm	S10	D10, D13-200mm	D10, D13-200mm
S4	D13-150mm	D13-150mm	S11	同上	D10-200mm
S5	同上	D10, D13-150mm	S12	同上	D10-250mm
S6	同上	D10-150mm	S13	D10-200mm	D10-200mm
S7	D10, D13-150mm	D10, D13-150mm	S14	同上	D10-250mm

(注) 上層筋、下層筋とも同一配筋とする。



- 配筋の継手は、中央から行い、隅部は定められた間隔以下とする。
- 横筋の定着継手長さは40d (軽量コンクリートの場合は50d) とし、1の重なり継手の長さのうち、大きい値とする。

図9.1 スラブの配筋

9. 2 スラブ筋の定着及び受け筋

(a) スラブ筋の定着及び受け筋は図9.2により、引継ぎすることができない場合は、図9.3により定着する。

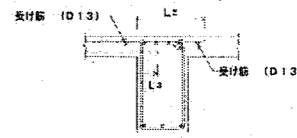


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)

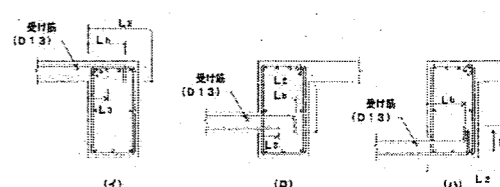


図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)



工事名称	畜産試験場和牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号	
図面名称	構造特記仕様書(4)	図面番号	S-04
(縮尺)		S=No Scale	

9.3 片持スラブの基礎配筋

(a) 片持スラブの基礎配筋は表9.2により、柱脚の位置及びスラブ厚さは構造図による。

表9.2 片持スラブの基礎配筋 (CS系)

配筋種別	主筋	配筋種別	主筋		
CS1	上	D13-100φ	CS5	上	D10-200φ
	下	D13-200φ		下	D10-400φ
CS2	上	D12-150φ	CS6	上	D10, D13-200φ
	下	D13-300φ		下	D10-200φ
CS3	上	D10, D13-150φ	CS7	上	D10-200φ
	下	D10, D13-300φ		下	
CS4	上	D10, D13-200φ			
	下	D10-200φ			

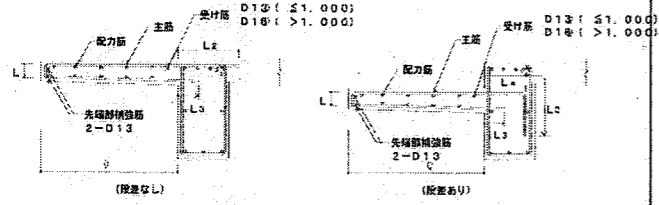


図9.4 片持スラブの配筋 (CS1からCS5)

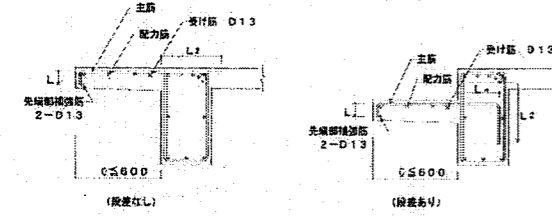


図9.5 片持スラブの配筋 (CS6及びCS7)

(注) 先端の折り曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

9.4 片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋

(a) 片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋は図9.6による。

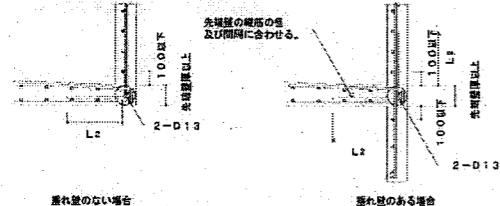
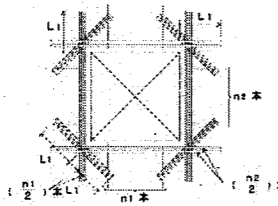


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

9.5 スラブの開口部の補強

(a) スラブ開口部の補強及び配筋方法は構造図による。ただし構造図において縦筋が開口として配筋されたものの開口補強については下記による事ができる。縦筋の開口の補強は構造図による。



(注) 1. スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋を開口部を補強し、開口部の斜め方向に2-D13 (φ=2L) シングルを上下部の内側に配筋する。
2. スラブ開口の最大径が開口部の配筋間隔以下で、鉄筋を壁やかに曲げることにより、開口部を覆って配筋できる場合は、補強を省略することができる。

図9.7 スラブ開口部の補強配筋

9.6 出隅部及び入隅部の補強

(a) 出隅部及び入隅部の補強

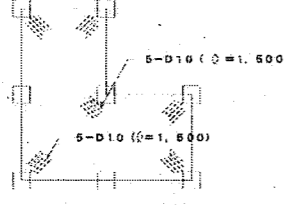


図9.8 出隅及び入隅部の補強配筋

(注) 補強筋を上鉄筋の下側に配筋する。

(b) 片持スラブの出隅部

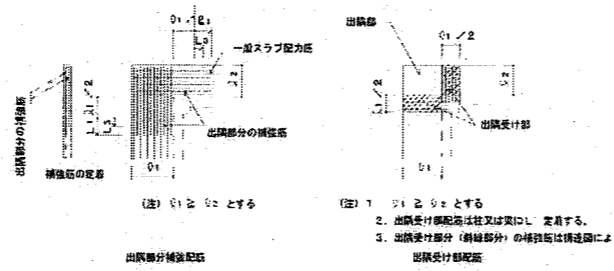


図9.9 片持スラブ出隅部の補強配筋

9.7 スラブの打継ぎ補強等

(a) 土間スラブの打継ぎ補強 (基礎とスラブを一体打ちしない打継ぎを設ける場合の補強) (土間スラブは土に接するスラブでの配筋によるものとする。φ>300の場合は構造図による。また、基礎梁の打継ぎ補強は構造図による。)



図9.10 打継ぎ補強配筋 (φ≦300の場合)

(b) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

(土間コンクリートの補強筋は構造図による。なお、基礎梁との接合部は図9.11による。ただし、φ>300の場合は構造図による。また、基礎梁の打継ぎ補強は構造図による。)

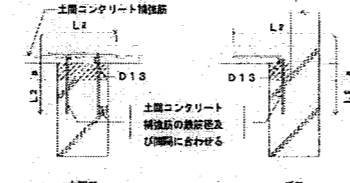


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋 (φ≦300の場合)

10 階段の配筋

10.1 片持スラブ形階段の基礎配筋

(a) 片持スラブ形階段の基礎配筋は表10.1により、種別の適用及びスラブ厚さは構造図による。

表10.1 片持スラブ形階段の基礎配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KAS	KA4
配筋図		

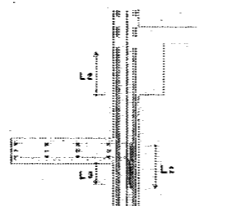


図10.1 片持スラブ形階段の基礎配筋

(注) 1. 片持スラブ形階段を設ける基礎配筋は、8.1(b)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから配筋とする。
3. スラブ配筋の標準及び定規の長さは、表3.3のL1とする。

10.2 二辺固定スラブ形階段の基礎配筋

(a) 二辺固定スラブ形階段の基礎配筋は表10.2及び図10.2、図10.3により、種別の適用、スラブ厚さは構造図による。

表10.2 二辺固定スラブ形階段の基礎配筋

配筋種別	上鉄筋、下鉄筋とも (全端)
KB1	D13-200φ
KB2	D13-150φ
KB3	D13-100φ
KB4	D13, D16-150φ
KB5	D16-150φ
KB6	D16-125φ
KB7	D16-100φ

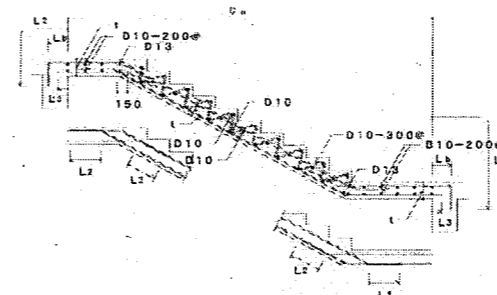
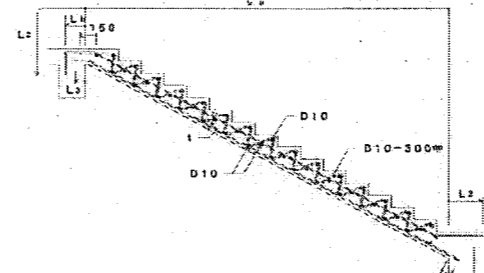


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)



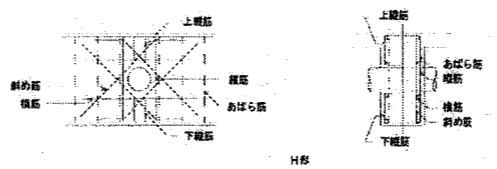
(注) 下階の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を適用する。

図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

11 梁貫通孔その他の配筋

11.1 梁貫通孔の配筋

(a) 梁貫通孔補強筋の各種等は図11.1による。
(b) 孔の位置は、梁せいみの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外挿円とする。
(c) 孔の上下方向の位置は梁せいみの中心付近とし、梁中央部下層は下層より1/3Dの範囲には設けてはならない。
(d) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せいみ) 以上とする。ただし、基礎梁及び支柱等は除く。
(e) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(f) 縦筋は、主筋の内側に配筋する。また、鉄筋の定規長さは、図11.2による。
(g) 孔の径が梁せいみの1/10以下、かつ、150mm未満のもの (軽微な開口) で鉄筋を壁やかに曲げることにより、開口部を覆って配筋出来る場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。
(h) 梁貫通孔の定規長は1.5倍以上とし、突き出しは10mm以上とする。
(i) 梁貫通孔の定規長は、梁せいみの1/3のリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、定規長に4箇所以上設ける。
(j) 梁貫通孔の定規長は、梁せいみ以下とし、鉄筋は貫通孔の中心とする。



構造関係共通図 (鉄骨標準図)

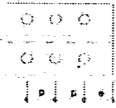
1 継ぎ目距離及びボルト間隔等

(1) 継ぎ目距離及びボルト間隔

継ぎ目距離及びボルト間隔は、表1. 1による。ただし、引張力の発生部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の継ぎ目距離は、特記による。特記がなければ、ボルト軸心の2.5倍以上とする。また、アンカーボルトの継ぎ目距離は特記による。

表1. 1 継ぎ目距離及びボルト間隔 (単位: mm)

ボルトの呼び	継ぎ目距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M24		
M24	45	70



(2) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1. 2による。

表1. 2 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔 (単位: mm)

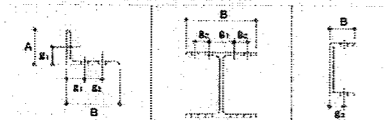
ゲージ e	千鳥打ちのボルト間隔 P1			
	M12, M16	M20, M22	M24	
35	50		65	
40	45		60	
45	40		55	
50	35		50	
55	25		45	
60			40	



(2) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸心

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸心は、表1. 3による。

表1. 3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸心 (単位: mm)



A又はB	e'	e''	最大軸心 B		最大軸心 B	
			e'	e''	e'	e''
45	25	12	100	56	16	50
50	28	16	125	78	16	65
60	35	16	150	90	22	70
65	35	20	175	105	22	75
70	40	20	200	120	24	80
75	40	22	250	150	24	90
80	45	22	300	150	24	100
90	50	24	350	140	24	100
100	55	24	400	140	24	100
125	50	35	24			
130	50	40	24			
150	55	55	24			
175	60	70	24			
200	60	90	24			

※1 千鳥打ちとした場合

(4) ボルト記号

表1. 4 高力ボルト記号

区分	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト (F10T, S10T)	○	○	○	○	○
溶接部用高力ボルト (F8T相当)	○	○	○	○	○

表1. 5 普通ボルト記号

区分	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト	○	○	○	○	○

2 溶接記号

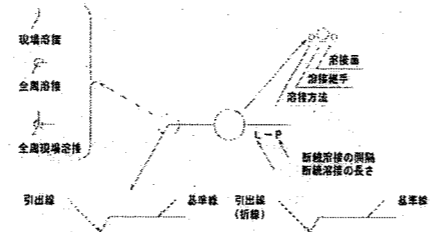
設計図中で使用する記号は、表2. 1、表2. 2、図2. 1を標準とする。

表2. 1 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類記号

溶接方法	分		記号
	用	用	
溶接方法	アーーク溶接、ガスシールドアーーク半自動溶接、セルフシールドアーーク半自動溶接	H	H
	サブマージアーーク自動溶接	A	A
	エレクトロスラグ溶接	E	E
溶接継手	完全溶込み溶接	B	B
	溶接継手	T	T
	溶接継手	L	L
	溶接継手	F	F
	溶接継手	P	P
溶接面	片面溶接	FL	FL
	両面溶接	1	2

表2. 2 溶接の補助記号

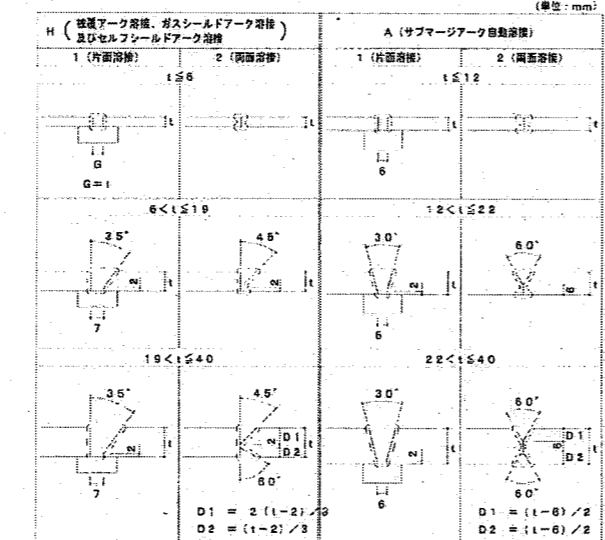
区分	補助記号
現場溶接	I
金庫溶接	C
全周溶接	L
断続溶接の長さ及び間隔	L-P



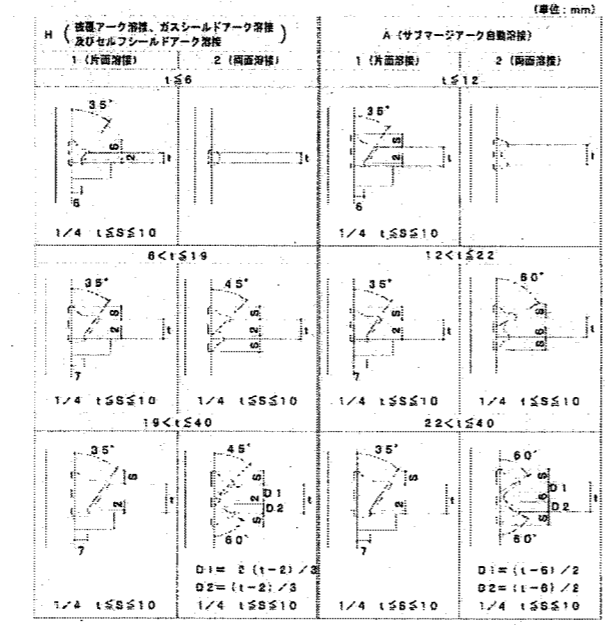
※特記なき限り、安全溶込み溶接の溶接方法、溶接面は適切な溶接方法等による。

3 溶接継手の種類別優先標準

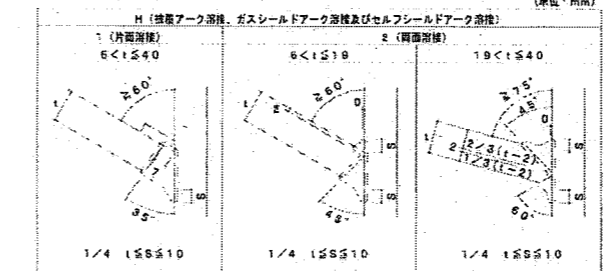
溶接継手の優先標準 (単位: mm)



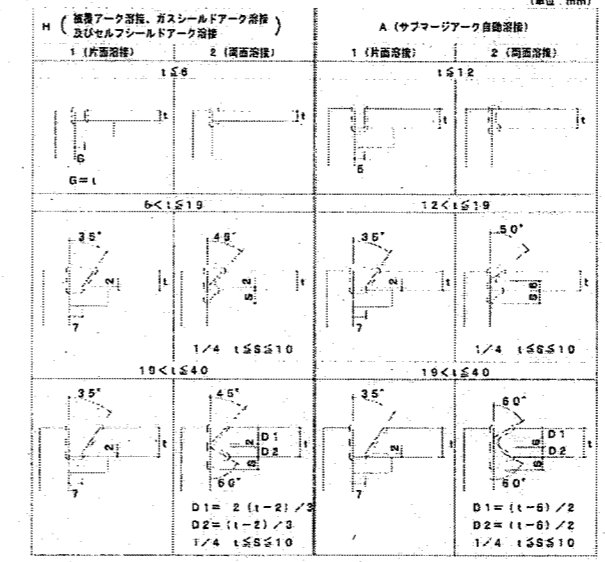
T型継手の優先標準 (単位: mm)



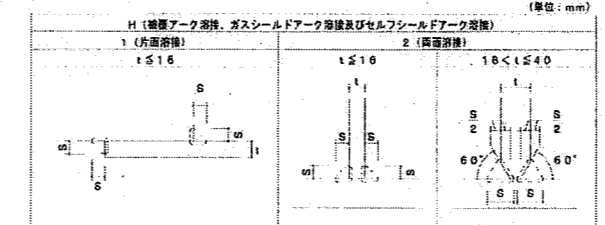
部材が直交しない場合の優先標準 (単位: mm)



かど継手の優先標準 (単位: mm)



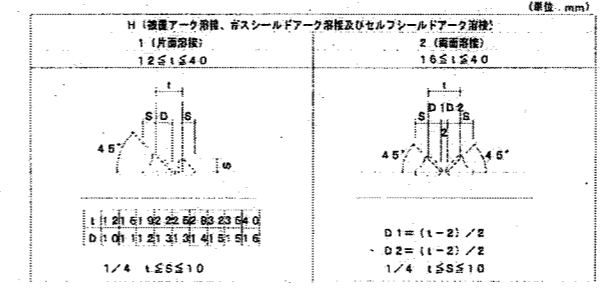
隅肉溶接の優先標準 (単位: mm)



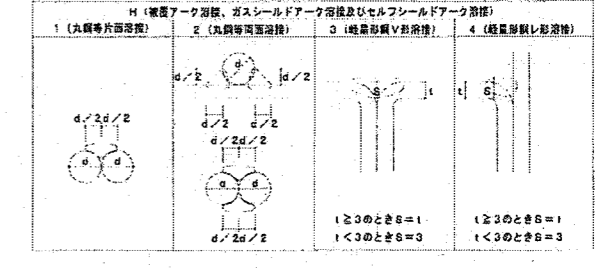
隅肉溶接のサイズ (単位: mm)

1	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	18	19	22	25	28	32	36	40
5	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24	

部分溶込み溶接の優先標準 (単位: mm)

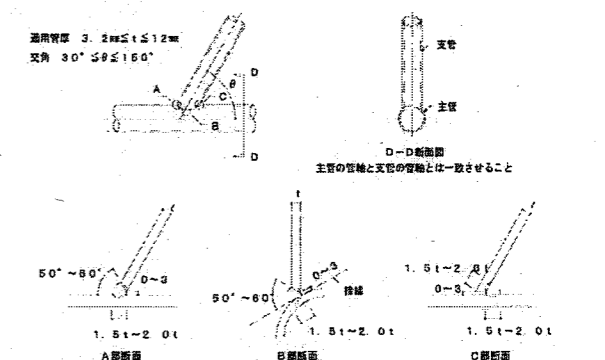


フレア溶接の優先標準 (単位: mm)



4 鋼管分岐継手

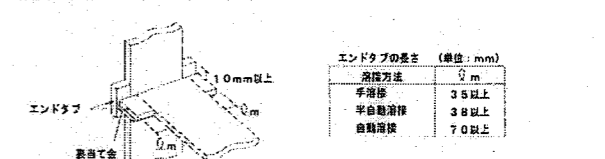
自動溶接により前加工を行う場合はこの限りではない。 (単位: mm)



5 鉄骨溶接施工

(1) エンドタブ

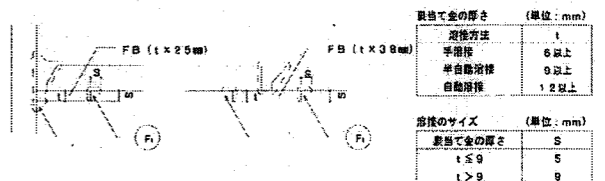
① エンドタブの形状は図表と同様・同図のものとする。



② エンドタブの厚さ、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。
③ スプライプレートの材質、鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。
④ フライアプレートの材質は、S66400とする。

(2) 裏当て金

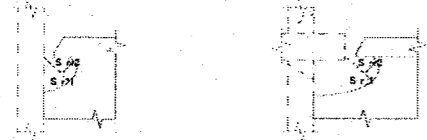
① 裏当て金の溶接
裏当て金の組み立て溶接は、溶接部に影響を及ぼさないように、エンドタブの位置又はフランジ幅の1/4の位置に行い、裏フランジ間隔から10mm以内の位置に行ってはならない。
② 完全溶込み位置溶接の片面溶接に用いる裏当て金は裏側としてフランジの内側に設置する。
裏当て金の鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。



(3) スカラップ

改良型スカラップ

- ①スカラップ半径 $S \cdot 1$ は 35mm とする。 $S \cdot 2$ は 10mm とする。
- ②スカラップ内側の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、接合部は滑らかに仕上げらる。



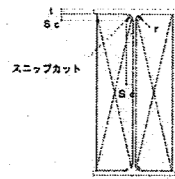
従来型スカラップ

- ①スカラップ半径 $S \cdot 1$ は 35mm とする。



(4) スニップカット

- ①スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



スニップカットの寸法 (単位: mm)

t	5	9	12	16以上
S _c	10	12	14	15

※ ただし、既設鋼のスニップカットについては、 $S_c = r + 2$ により求めるものとする。

(5) 溶接部分の段差

- ①完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差は 10mm を超える場合は、

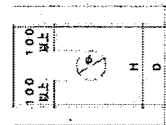


(7) 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	予熱温度 (°C)
400N 級鋼	JIS Z 3211, 3212	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
490N 級鋼	JIS Z 3214	40以下	350以下
	YGA-50W, 50P		
	YGW-11, 15		
520N 級鋼	YGW-18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3214		
	YGA-50W, 50P		
400N 級 STKR	YGW-11, 15	30以下	250以下
BCR 及び BCP	YGW-18, 19	40以下	250以下
490N 級 STKR 及び BCP	YGW-18, 19	30以下	250以下

6 梁貫通孔補強

- (1) 鉄骨梁及び鉄骨鉄筋コンクリート梁の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合に貫通孔部分を補強する場合に適用する。
- (2) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨梁の $1/2$ 以下かつ鉄筋コンクリート梁の $1/3$ 以下とする。
- (3) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔間の平均値、鉄骨梁で 2 倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート梁で 3 倍以上確保する。
- (4) 梁貫通孔位置の制限は以下による。

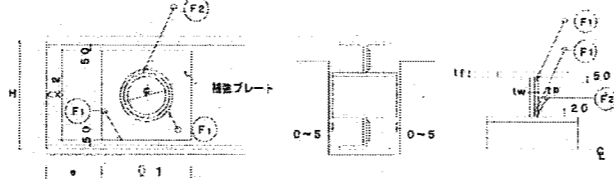


H: 鉄骨せい
D: 柱せい
d: 貫通孔内径寸法
($d \leq H/2$ かつ $d \leq D/3$)

※ 梁端に貫通孔を設ける場合は、原則として、梁端から貫通孔の中心まで、2D 以上、梁端手位置等にも留意する。

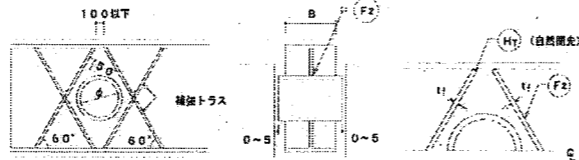
梁貫通孔の位置の制限 (単位: mm)

補強プレート法



- ①は3かまたは②のうち小さい方とする。(≧2Hとする)
- : 材端と補強プレートとの間隔

補強トラス法



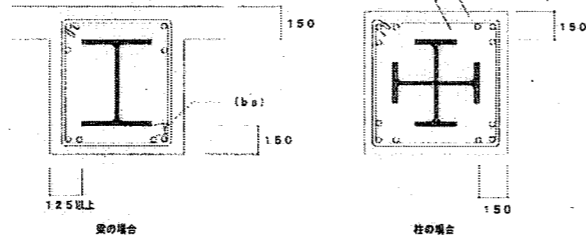
7 広幅平鋼の取り扱い

- (1) BH 鋼のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートは、PL 表記であっても FB 又は PL とする。
- (2) BH 鋼のフランジ及びフランジに使用する外側スプライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

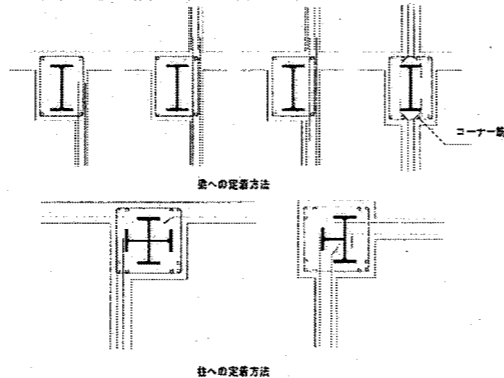
幅	間隔										
	5	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
300	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
350	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
400	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
450	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
500	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

8 鉄骨と鉄筋コンクリート部分の取合い

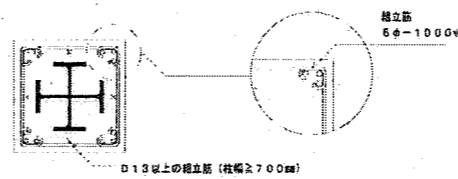
- (1) 鉄骨のかぶり厚さ
鉄筋と鉄骨相互のあき (b_a) は、鉄骨材の最大寸法の 1.25 倍以上とする。



- (2) 梁端の両面材への受荷
鉄筋を折り曲げる場合は、鉄筋の呼び名の数値の 1.0 倍以上直線に定着後、斜やかに折り曲げる。

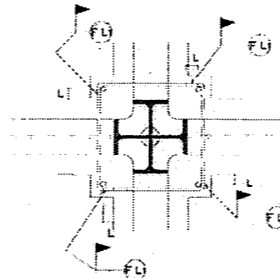


(3) 柱補立筋



- (4) 出口部内の帯筋の加工及び組立

方面帯筋の有効長さ (L) は、鉄筋の呼び名の数値の 1.0 倍以上とする。ただし、溶接による場合は 1.35 倍の曲げフックとする。



(5) 鉄筋貫通孔の径及び位置

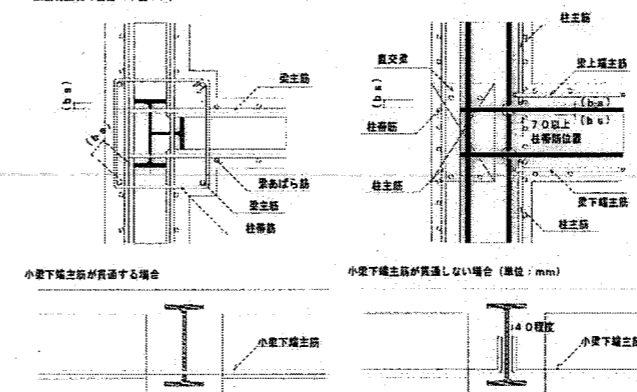
鉄筋貫通孔の径

- ①主筋の鉄筋貫通孔は、最大孔径に統一する。
- ②継手フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。

(単位: mm)

鉄筋の呼び名	D10D	3D	10D	15D	20D	25D	30D
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43

鉄筋貫通孔の位置 (単位: mm)

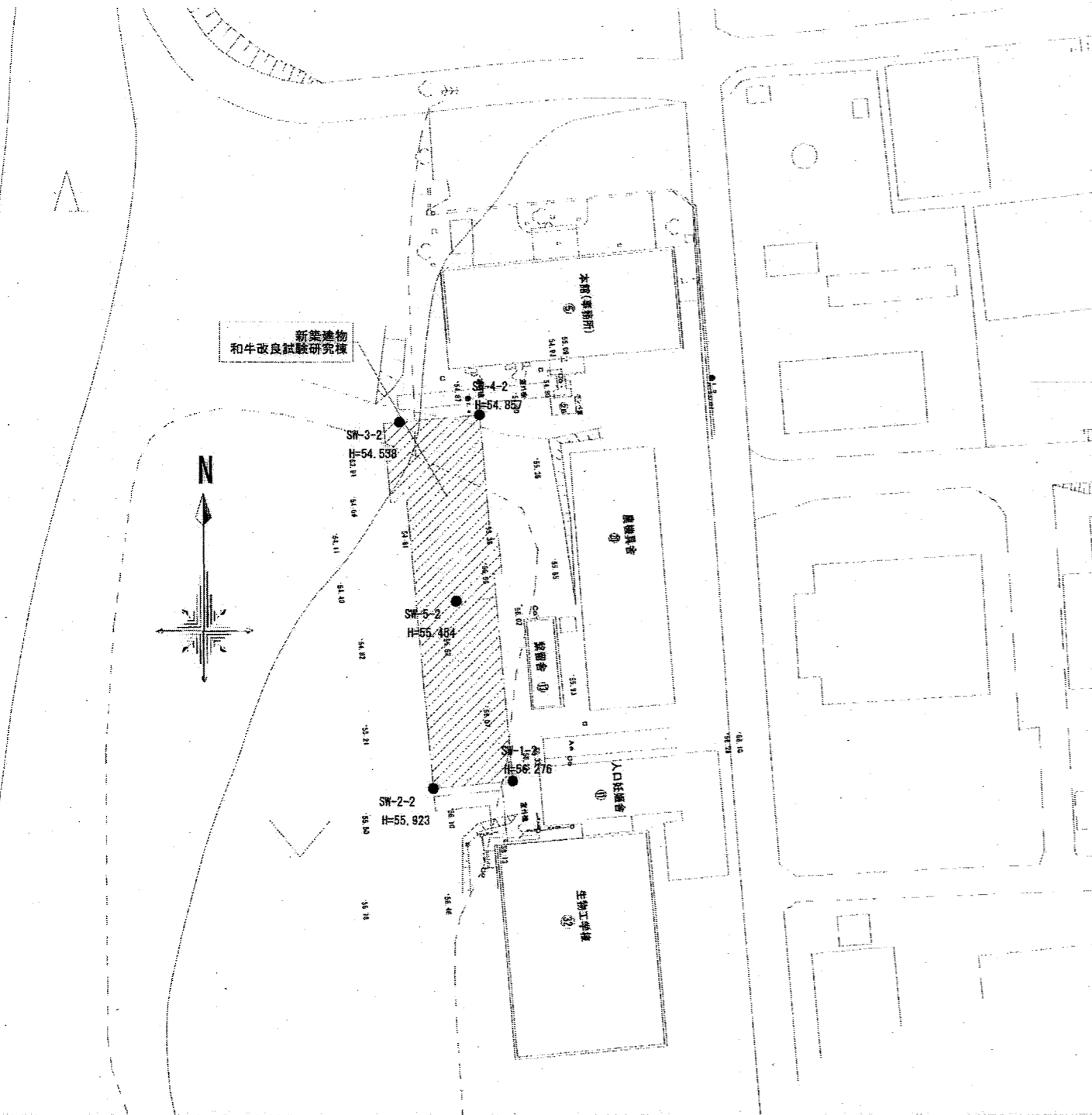


工事名称 畜産試験場と牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号
図面名称 鉄骨構造特記仕様書(2) (縮尺)	図面番号 S-07

1. 敷地断面図及び基礎・地盤説明書

- (1) ● 支持地盤の種類及び位置
ボーリング柱状図による
- (2) ● 基礎の底部又は基礎ぐいの先端の位置
基礎の底部:GL-1.250m
- (3) ● 地盤の支持力及びその算出根拠
(算出根拠は構造計算による)
改良後地耐力:180kN

【ボーリング位置図】



2. ボーリング柱状図(参考)

ボーリング柱状図

調査名 畜産試験場地質調査業務

ボーリングNo 0000000000
シートNo

ボーリング名	B-3	調査位置	東田郡赤松町長谷	本 冊	00
発 注 機 関	鳥取県農林水産部 畜産課	調査期間	平成18年 1月15日～平成18年 1月24日	束 縛	00
調査番号	鳥取県コンクリート株式会社 電話 0859-26-4685	管理技術者	横井 貴	ボーリング 機 種	試験 鳥線
孔口標高	GN+55.62m	機 種	山口 龍二 口 部 機 種	ハンマ 目録表下	
総掘進長	19.00m	機 種	エンジン YD-9	ポンプ YD-5	

深 度 尺	層 状 厚 度 尺	土 色 質 状 記 号	特 記 事 項	標準貫入試験		試料採取 位置 及び結果	試料採取 方法	備 考
				100gの 打撃回数 N	試 験 名 称			
0	0			0	N			
1	1			1				
2	2			2				
3	3			3				
4	4			4				
5	5			5				
6	6			6				
7	7			7				
8	8			8				
9	9			9				
10	10			10				
11	11			11				
12	12			12				
13	13			13				
14	14			14				
15	15			15				
16	16			16				
17	17			17				
18	18			18				
19	19			19				
20	20			20				
21	21			21				
22	22			22				

鳥取県
平成30年度
総務部営繕課

工事名称	畜産試験場和牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号	
図面名称 (縮尺)	構造特記仕様書(地盤説明書) S=1/500 (A3:1/750)	図面番号	S-08

JIS A 1221 スウェーデン式サウンディング試験

調査件名 鳥取県畜産試験場 和牛改良試験研究棟 新築工事に伴う測量等業務 調査年月日 2018/5/8
 地点番号(地盤高) SW-1-2(56.276m) 試験者 山口健二

荷重Wsw kgf	半回転数 Nsw	手動		換算N値	記事	深さ m	荷重Wsw kgf	貫入量1mあたりの半回転数 Nsw
		貫入深さ m	貫入量 cm					
5	0	0.07	7	0.0	-	0.0		
75	0	0.75	68	0.0	-	0.0		
100	0	0.80	5	0.0	-	0.0		
75	4	1.00	20	20.0	-	0.5		
100	19	1.25	25	76.0	7.0	0.5		
100	23	1.50	25	92.0	7.6	1.0		
100	6	1.75	25	42.0	4.2	1.0		
100	4	2.00	25	16.0	3.8	1.0		
100	4	2.30	30	13.3	3.6	1.0		
100	4	2.50	20	20.0	4.0	1.0		
100	4	2.75	25	16.0	3.8	1.0		
100	6	3.00	25	24.0	4.2	1.0		
100	6	3.32	32	18.8	3.9	1.0		
100	26	3.50	18	144.4	10.2	1.0		
100	17	3.75	25	68.0	6.4	1.0		
100	30	4.00	25	120.0	9.0	1.0		
100	38	4.25	25	152.0	10.6	1.0		
100	22	4.50	25	88.0	7.4	1.0		
100	9	4.75	25	36.0	4.8	1.0		
100	50	4.95	20	250.0	15.5	1.0		
100	40	5.00	5	800.0	43.0	1.0		
100	50	5.04	4	1250.0	85.7	1.0		

特記事項 N値換算式
 砂質土: N値=0.02Wsw[kgf]+0.067Nsw(回)
 粘性土: N値=0.03Wsw[kgf]+0.05Nsw(回)

JIS A 1221 スウェーデン式サウンディング試験

調査件名 鳥取県畜産試験場 和牛改良試験研究棟 新築工事に伴う測量等業務 調査年月日 2018/5/8
 地点番号(地盤高) SW-2-2(55.923m) 試験者 山口健二

荷重Wsw kgf	半回転数 Nsw	手動		換算N値	記事	深さ m	荷重Wsw kgf	貫入量1mあたりの半回転数 Nsw
		貫入深さ m	貫入量 cm					
5	0	0.07	7	0.0	-	0.0		
100	0	0.50	43	0.0	3.0	0.0		
100	8	0.75	25	32.0	4.6	0.0		
100	10	1.00	25	40.0	5.0	0.0		
100	3	1.25	25	12.0	3.6	0.0		
100	5	1.50	25	20.0	4.0	0.0		
100	7	1.75	25	28.0	4.4	0.0		
100	4	2.00	25	16.0	3.8	0.0		
100	0	2.50	50	0.0	3.0	0.0		
100	4	3.00	50	8.0	3.4	0.0		
100	4	3.25	25	18.0	3.8	0.0		
100	3	3.50	25	12.0	3.6	0.0		
100	22	3.75	25	88.0	7.8	0.0		
100	38	4.00	25	152.0	10.6	0.0		
100	26	4.25	25	104.0	8.2	0.0		
100	25	4.50	25	100.0	8.0	0.0		
100	31	4.75	25	124.0	9.2	0.0		
100	25	5.00	25	100.0	8.0	0.0		
100	20	5.25	25	80.0	7.0	0.0		
100	50	5.48	23	217.4	13.8	0.0		
100	11	5.50	2	550.0	30.5	0.0		
100	50	5.64	14	357.1	20.8	0.0		
100	18	5.75	11	183.6	11.1	0.0		
100	50	5.95	20	250.0	15.5	0.0		
100	13	6.00	5	260.0	16.0	0.0		
100	50	6.16	16	312.5	18.6	0.0		
100	25	6.25	9	277.8	16.8	0.0		
100	50	6.44	19	263.2	16.1	0.0		
100	16	6.50	6	266.7	16.3	0.0		
100	37	6.75	25	148.0	10.4	0.0		
100	50	6.87	22	227.3	14.3	0.0		
100	7	7.00	3	233.3	14.6	0.0		
100	50	7.15	15	333.3	19.6	0.0		
100	50	7.22	7	714.3	38.7	0.0		
100	118	7.25	3	393.3	19.6	0.0		
100	50	7.35	10	500.0	28.0	0.0		
100	50	7.48	13	384.6	22.2	0.0		
100	8	7.50	2	400.0	23.0	0.0		
100	50	7.58	8	625.0	34.2	0.0		
100	50	7.65	7	714.3	38.7	0.0		
100	50	7.70	5	1000.0	68.0	0.0		

特記事項 N値換算式
 砂質土: N値=0.02Wsw[kgf]+0.067Nsw(回)
 粘性土: N値=0.03Wsw[kgf]+0.05Nsw(回)

JIS A 1221 スウェーデン式サウンディング試験 GL(56.24m)

調査件名 鳥取県畜産試験場 和牛改良試験研究棟 新築工事に伴う測量等業務 調査年月日 2018/5/8
 地点番号(地盤高) SW-3-2(54.538m) 試験者 山口健二

荷重Wsw kgf	半回転数 Nsw	手動		換算N値	記事	深さ m	荷重Wsw kgf	貫入量1mあたりの半回転数 Nsw
		貫入深さ m	貫入量 cm					
5	0	0.16	16	0.0	0.1	0.0		
75	0	0.50	34	0.0	2.2	0.0		
100	0	0.61	11	0.0	3.0	0.0		
100	2	0.75	14	14.3	3.7	0.0		
100	8	1.00	25	32.0	4.6	0.0		
100	5	1.32	32	15.6	3.7	0.0		
100	1	1.50	18	5.6	3.2	0.0		
100	4	1.75	25	16.0	3.8	0.0		
100	7	2.00	25	28.0	4.4	0.0		
100	5	2.25	25	20.0	4.0	0.0		
100	3	2.50	25	12.0	3.6	0.0		
100	0	3.00	50	0.0	3.0	0.0		
100	0	3.25	25	0.0	3.0	0.0		
100	6	3.50	25	24.0	4.2	0.0		
100	2	3.84	34	5.9	3.2	0.0		
100	23	4.00	16	143.8	10.1	0.0		
100	27	4.25	25	108.0	8.4	0.0		
100	50	4.47	22	227.3	14.3	0.0		
100	8	4.50	3	266.7	16.3	0.0		
100	50	4.67	17	294.1	17.7	0.0		
100	23	4.75	8	287.5	17.3	0.0		
100	50	4.94	19	263.2	16.1	0.0		
100	12	5.00	6	200.0	13.0	0.0		
100	29	5.25	25	116.8	8.8	0.0		
100	50	5.48	23	217.4	13.8	0.0		
100	23	5.50	2	1150.0	60.5	0.0		
100	50	5.58	8	825.0	34.2	0.0		
100	50	5.73	15	333.3	19.6	0.0		
100	11	5.75	2	550.0	30.5	0.0		
100	50	5.87	12	416.7	23.8	0.0		
100	50	5.98	11	454.5	25.7	0.0		
100	10	6.00	2	500.0	28.0	0.0		
100	50	6.11	11	454.5	25.7	0.0		
100	50	6.25	14	357.1	20.8	0.0		
100	50	6.42	17	294.1	17.7	0.0		
100	31	6.50	8	387.5	22.3	0.0		
100	50	6.63	13	384.6	22.2	0.0		
100	50	6.74	11	454.5	25.7	0.0		
100	5	6.75	1	500.0	28.0	0.0		
100	50	6.85	10	500.0	28.0	0.0		
100	50	6.96	11	454.5	25.7	0.0		
100	20	7.00	4	500.0	28.0	0.0		
100	50	7.12	12	416.7	23.8	0.0		
100	42	7.25	13	323.1	19.1	0.0		
100	50	7.33	8	625.0	34.2	0.0		
100	50	7.34	1	5000.0	337.0	0.0		

特記事項 N値換算式
 砂質土: N値=0.02Wsw[kgf]+0.067Nsw(回)
 粘性土: N値=0.03Wsw[kgf]+0.05Nsw(回)



工事名称	畜産試験場和牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号	-
図面名称	ボーリング柱状図(1)	図面番号	S-09
	S=1/50 (A3:1/75)		

JIS A 1221 スウェーデン式サウンディング試験

調査件名 鳥取県畜産試験場 和牛改良試験研究棟 調査年月日 2018/5/8 GL(56.24m)
 新築工事に伴う測量等業務

地点番号(地盤高) SW-4-2(54.857m) 試験者 山口健二

観測装置の種類						手動						自動					
荷重Wsw kgf	半回転数 Na	許入深Dm m	許入径Dc cm	1mあたり の半回転数 Nsw	換算N値	深さ m	荷重Wsw kgf	許入深Dm m	許入径Dc cm	1mあたり の半回転数 Nsw	換算N値	深さ m	荷重Wsw kgf	許入深Dm m	許入径Dc cm	1mあたり の半回転数 Nsw	換算N値
5	0	0.14	14	0.0	0.1												
50	0	0.25	11	0.0	1.5												
100	0	0.42	17	0.0	3.0												
100	2	0.50	8	25.0	4.2												
100	4	1.00	50	8.0	3.4												
100	2	1.44	44	4.5	3.2												
100	1	1.50	6	16.7	3.8												
100	0	1.58	8	0.0	3.0												
100	2	1.75	17	11.8	3.5												
100	3	2.00	25	12.0	3.6												
100	0	2.32	32	0.0	3.0												
100	2	3.00	68	2.9	3.1												
100	9	3.25	25	36.0	4.8												
100	15	3.50	25	60.0	6.0												
100	18	3.75	25	72.0	6.6												
100	44	4.00	25	176.0	11.8												
100	37	4.25	25	148.0	10.4												
100	16	4.50	25	64.0	6.2												
100	13	4.75	25	52.0	5.6												
100	50	4.88	11	454.5	25.7												
100	50	4.98	12	416.7	23.8												
100	2	5.00	2	100.0	8.0												
100	50	5.21	21	238.1	14.9												
100	9	5.25	4	225	14.2												
100	50	5.45	20	250	15.5												
100	5	5.50	5	100	8.0												
100	50	5.67	17	294.1	17.7												
100	17	5.75	8	212.5	13.6												
100	31	6.00	25	124	9.2												
100	45	6.25	25	180	12.0												
100	50	6.32	7	714.3	38.7												
100	50	6.39	7	714.3	38.7												
100	28	6.50	11	254.5	15.7												
100	50	6.71	21	238.1	14.9												
100	14	6.75	4	350	20.5												
100	50	6.87	12	416.7	23.8												
100	50	6.96	9	555.6	30.7												
100	25	7.00	4	625	34.2												
100	50	7.10	10	500	28.0												
100	47	7.25	15	313.3	18.6												
100	50	7.33	8	625	34.2												
100	50	7.34	1	5000	337.0												

特記事項 N値換算式
 砂質土: N値=0.02Wsw[kgf]+0.067Nsw(回)
 粘性土: N値=0.03Wsw[kgf]+0.05Nsw(回)

JIS A 1221 スウェーデン式サウンディング試験

調査件名 鳥取県畜産試験場 和牛改良試験研究棟 調査年月日 2018/5/8
 新築工事に伴う測量等業務

地点番号(地盤高) SW-5-2(55.454m) 試験者 山口健二

観測装置の種類						手動						自動					
荷重Wsw kgf	半回転数 Na	許入深Dm m	許入径Dc cm	1mあたり の半回転数 Nsw	換算N値	深さ m	荷重Wsw kgf	許入深Dm m	許入径Dc cm	1mあたり の半回転数 Nsw	換算N値	深さ m	荷重Wsw kgf	許入深Dm m	許入径Dc cm	1mあたり の半回転数 Nsw	換算N値
5	0	0.08	8	0.0	0.1												
100	0	0.50	42	0.0	0.3												
100	24	0.75	25	96.0	7.8												
100	5	1.00	25	20.0	4.0												
100	0	1.38	38	0.0	3.0												
100	5	1.50	12	41.7	5.0												
100	15	1.75	25	60.0	6.0												
100	5	2.00	25	20.0	4.0												
100	3	2.25	28	12.0	3.6												
100	6	2.50	25	24.0	4.2												
100	4	2.75	25	16.0	3.8												
100	4	3.13	38	10.5	3.5												
100	6	3.25	12	50.0	5.5												
100	48	3.50	25	192.0	12.6												
100	41	3.75	25	164.0	11.2												
100	50	3.99	24	208.3	13.4												
100	3	4.00	1	300.0	18.0												
100	50	4.14	14	357.1	20.8												
100	34	4.25	11	309.1	18.4												
100	35	4.50	25	140.0	10.0												
100	9	4.75	25	96.0	4.8												
100	18	5.00	25	72.0	6.6												
100	50	5.07	7	714.3	38.7												
100	50	5.10	3	1667	113.6												

特記事項 N値換算式
 砂質土: N値=0.02Wsw[kgf]+0.067Nsw(回)
 粘性土: N値=0.03Wsw[kgf]+0.05Nsw(回)



工事名称 畜産試験場和牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号 -
図面名称 ボーリング柱状図(2) (縮尺)	図面番号 S-10

S=1/50
(A3:1/75)

深層混合処理（ソイルセメントコラム）工法特記仕様書

1. 工事概要

本工事は、深層混合処理（ソイルセメントコラム）工法による地盤改良地業であり、その工法概要はスラリー状のセメント系固化材を地盤に注入しながら土の共廻り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原地盤土と機械的に混合攪拌し、固化材の化学反応により所要の強度を持つ改良柱体を築造するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか、「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針 平成14年11月」（日本建築センター、以下建築センター指針という）による。

3. 特記事項

- コラム径、掘削深度（改良長+空堀長）、本数、配置は設計図書による。但し、コラム径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について、土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
- コラムの設計基準強度 $F_c = 700 \text{ kN/m}^2$ （品質検査方法は建築センター指針の要領に準拠する）
- 使用する工法は建築技術性能証明（財）日本建築総合試験所）又は建築技術審査証明（財）日本建築センター）等によりその性能を証明された工法とする。（ウルトラコラム工法同等）

4. 施工計画

- 本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したものとす。
- 施工計画

工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

 - a 地盤概要
 - b 工事内容（コラム径、空堀長、改良長、本数、設計基準強度）
 - c 工事期間及び工程
 - d 工事要領（使用固化材・配合・攪拌翼の昇降速度・吐出量等）
 - e 施工機器および仮設設備と配置
 - f 配合管理の方法
 - g 施工管理の方法

- h 品質検査の方法
- i 各種作業の主たる従事者の組織表
- j 施工記録の方法
- k 環境の保全対策
- l 安全対策
- m 建築請負業者の本工事責任者名
- n 本工事施工業者名及び責任者名

5. 施工

- 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は別途検討する。
 - a 攪拌装置をコラム芯にセットする。
 - b 所定の空堀深度まで掘削する。
 - c 固化材液を吐出しながら掘削混合攪拌する。
 - d 所定深度に到達したら、固化材液の吐出を停止し、先端部繰返し（混合攪拌しながら攪拌装置を上昇、下降）をする。
 - e 攪拌装置を回転させながら引き上げる。
- 本工事により排土される発生残土は場内処分とする。
- 施工に対して騒音が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6. 施工機器

- 固化材と原位置土を一体のものとして確実に混合攪拌ができ、土の共廻り現象を防止する攪拌装置を用いること。
- 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
- 改良機本体は、施工仕様を満足する制御機器及び記録計を装備し、自走式とする。
- ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7. 配合管理

- 固化材液に使用する固化材は、有機質土用セメント系固化材とする。
- 配合強度

変動係数を想定し、9項に規定する抜き取りヶ所数N、合格確率80%とした下表を用いて設定する。
 $X_f = \alpha \cdot F_c$ 【 α : 割り増し係数、 X_f : 配合強度: 室内材料28日での管理値 (kN/m²)】

変動係数	N	1	2	3	4~6	7~8	9以上
25%	α	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594
30%	α	2.597	2.240	2.095	1.961	1.869	1.792
35%	α	3.160	2.649	2.448	2.265	2.140	2.037

(3) 固化材液の計画配合

水・固化材比 $W/C = 60\%$
 固化材添加量 $\alpha_n = 350 \text{ kg/m}^3$

※上記は計画配合値であり、施工前に現地土を採取し室内配合試験を行い、実施工での配合を決定する。

(4) 室内配合試験

固化材液の配合(W/C)と使用量(添加量)は、室内配合試験の結果に基づいて、現場と室内の強度比を考慮した上、上記の配合強度を満足するように決定する。

8. 施工管理

- 施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。
 - a 形状寸法 : 鉛直性 改良機本体のオペレーター室内に設置された傾斜計で管理する。
 コラム芯 事前にコラム芯にマークを設ける。コラム芯ずれの管理値は100mm以内とする。
 改良径 攪拌装置の形状・寸法を記録する。
 - b 固化材 : 材料計量 水、固化材の重量を計測する。
 スラリー比重 比重計（マッドバランス、重量計等）で計測する。
 スラリー吐出量 流量計で計測し記録する。
 - c 攪拌混合度 : 掘進・引き上げ速度 速度計で計測し記録する
 攪拌装置 掘削翼、攪拌翼の枚数等。
 - d 支持地盤 : 掘進速度 速度計で計測し記録する。
 オーガー抵抗値 電流計またはトルク計で計測し記録する。
 掘進速度、オーガー抵抗値の推移を参考に管理する。

9. 品質検査

- 検査対象層及び調査ヶ所数、一軸圧縮試験
 - a 調査箇所数は頭部コア、深部コアともにコラム100本に1箇所を基本とする。
 - b 検査対象層は「粘性土」層の単一層であるので、設計対象層を同層とする。
 - c 調査ヶ所数（総本数：27本より）
 - ① 頭部コア：1ヶ所（コラム1本の頭部よりモールドコアにより採取する）
 - ② 深部コア：3ヶ所（コラム1本の上部・中部・下部の3深度よりモールドコアを採取する）
 - d 採取したコアを整形し、所定の材料にて一軸圧縮試験を行う。（供試体個数=3個/ヶ所）
 - ① 頭部コア：1ヶ所（採取したコアの端部を切斷整形し、供試体を作製する—供試体個数：1ヶ所×3個=3個）
 - ② 深部コア：3ヶ所（採取したコアの端部を切斷整形し、供試体を作製する—供試体個数：3ヶ所×3個=9個）
- 可否の判定
 - a 検査手法はAを適用する。
 - b 設計対象層についての抜き取りヶ所数をNとする。1ヶ所あたりは3個の供試体を採用し、その平均強度をそのヶ所の強度とする。
 - c 一軸圧縮試験は第三者機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。
 - d 可否の判定は設計対象層におけるNヶ所（抜き取りヶ所）の一軸圧縮試験結果が下式を満足する場合を合格と判定する。
 $XN > XL = F_c + k_a \cdot \sigma_d$
 XN : Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値 (kN/m²) σ_d : 標準偏差 (kN/m²) = $V \cdot qu_d$
 XL : 合格判定値=管理値 (kN/m²) V : 変動係数 (品質確認書による)
 F_c : 設計基準強度 (kN/m²) qu_d : 想定した平均一軸圧縮強さ (kN/m²)
 k_a : 合格判定係数 $qu_d = F_c / (1 - 1.3 \cdot V)$

合格判定係数

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4~6	7~8	9以上
合格判定係数 k_a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

10. 報告

工事完了後、次の事項について報告書をまとめ、3部監督員に提出する。

- a コラムの付図及び番号
- b コラムの施工日
- c コラムの径及び掘削深度
- d 掘進および引き上げ速度
- e 固化材液の配合と使用量
- f コア供試体の強度管理試験結果
- g コア採取率調査結果
- h 合格判定結果

11. その他

本施工前に室内配合試験時の供試体を用いて六価クロム溶出試験を実施し、溶出量が環境庁告示第46号の土質環境基準値(0.05mg/l)以下であることを確認する。

試験方法、試験個数等に関しては、平成13年4月20日付国官技第16号国営建築1号「セメントおよびセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要綱(案)の一部変更について」による。

※ 本工事における試験種別および個数 : 配合設計の段階で実施する溶出試験 検体数 1



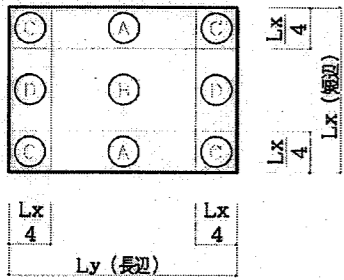
工事名称 高産試験場和牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号 -
図面名称 深層混合処理工法特記仕様書 (縮尺)	図面番号 S-No Scale S-11

符号 位置	FG1		FG2	FG3	FG4	符号	FC1	FC2	FC3
	端部	中央	全断面	全断面	全断面		1F階	1F階	1F階
1F階									
断面寸法	350 x 750		300 x 600	350 x 750	300 x 600	断面寸法	600 x 600	500 x 450	450 x 400
上端筋	3-D22	3-D22	2-D19	3-D22	3-D19	主筋	12-D19	8-D19	8-D16
下端筋	3-D22	3-D22	2-D19	2-D22	2-D19	帯筋	□-D10-φ100	□-D10-φ100	□-D10-φ150
おぼろ筋	□-D10-φ200		□-D10-φ200	□-D10-φ200	□-D10-φ200	備考			
腹筋	2-D10		2-D10	2-D10	2-D10				
幅止め筋									
備考									

床スラブ配筋リスト

符号	版厚	支持状態	層	短辺方向 (主筋)			長辺方向 (配力筋)			備考
				中央部		両端部	中央部		両端部	
				端部 (A)	中央 (B)	全域 (C)(D)	端部 (D)	中央 (B)	全域 (A)(C)	
FS1	120	4辺固定	上	D10, D13-φ200	D10, D13-φ200	D10, D13-φ200	D10-φ200	D10-φ200	D10-φ200	D11
			下	D10, D13-φ200	D10, D13-φ200	D10, D13-φ200	D10-φ200	D10-φ200	D10-φ200	
DM1	120	土間	上	D10-φ200	D10-φ200	D10-φ200	D10-φ200	D10-φ200	D10-φ200	-
			下	-	-	-	-	-	-	
			上							
			下							
			上							
			下							
			上							
			下							
			上							
			下							

スラブ配筋区分図



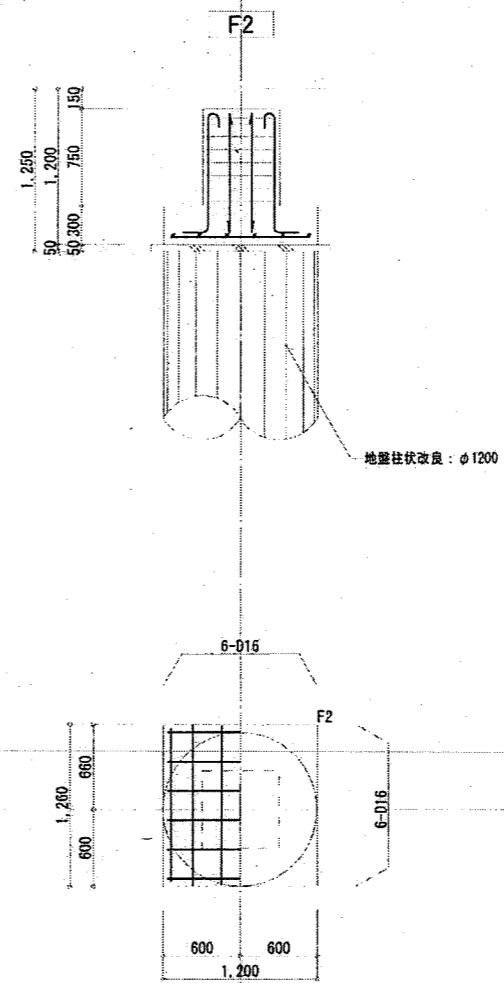
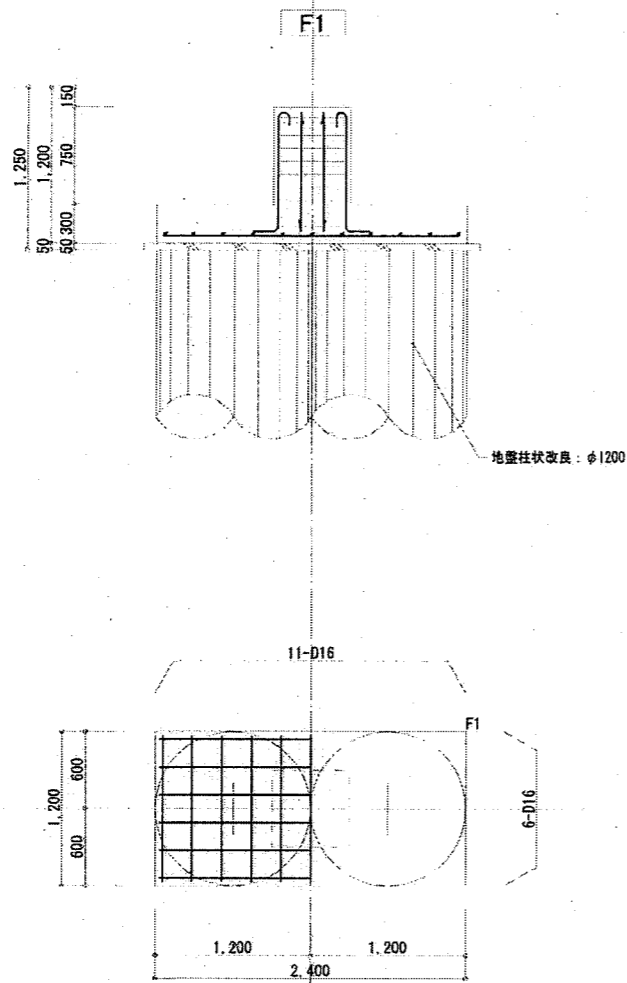
壁配筋リスト S=1:20

符号	W12
断面	
平面	
タテ筋	D10-φ150
ヨコ筋	D10-φ200
開口補強	
タテ筋	1-D13
ヨコ筋	1-D13
斜筋	1-D13



工事名称	畜産試験場和牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号	-
図面名称	基礎断面リスト (縮尺)	図面番号	S-12

S=1/40 (A3:1/60)

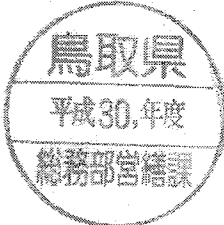
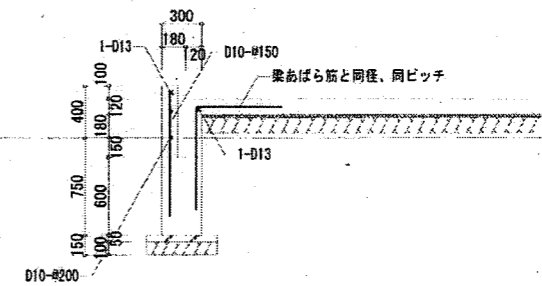
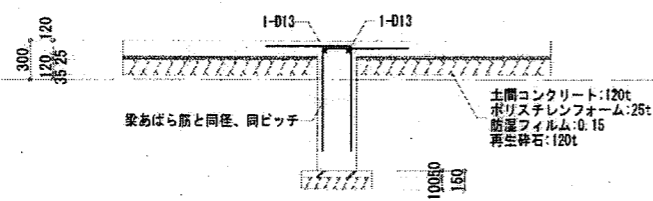


FG:増打ち補強

S=1/40

外部周り立上り

S=1/40



工事名称	畜産試験場和牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号	-
図面名称	基礎詳細図 (縮尺)	S=1/40 (A3:1/60)	図面番号 S-13

鉄骨部材断面リスト

1 ボルトピッチ(P), ボルト孔径・最小縁端距離(mm)

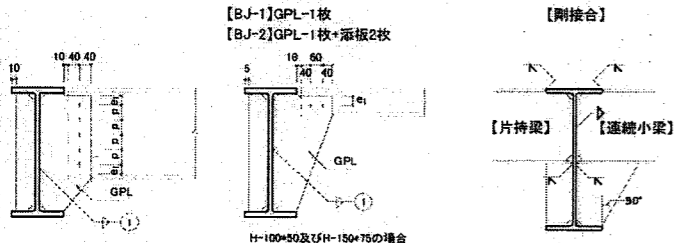
呼び径	M16	M20	M22
孔径	18.0	22.0	24.0
フランジ	60	60	60
ウェブ	60(90,120)	60(90,120)	60(90,120)
はしあき	40	40	40
へりあき	22	27.5	35

2 主柱・補助部材 断面リスト

符号	主材	取付	材種
[柱材]			
1C1	□-250x250x12.0	BPL-25x410x110(SN490B) A.Bolt:4-M20 L=700(ABR-JSS転道ネジ)	STKR400
1C2	□-150x150x6.0	BPL-16x310x210(SN490B) A.Bolt:2-M16 L=560(SS400)	STKR400
1C3	□-125x125x5.0	BPL-16x285x185(SN490B) A.Bolt:2-M16 L=560(SS400)	STKR400
[片持ち梁]			
RCB1	H-150x75x5x7	フランジレ型溶接 ウェブ隅肉溶接	SS400
RCB2	H-200x100x5.5x8	フランジレ型溶接 ウェブ隅肉溶接	SS400
RCC1	H-100x100x6x8	-	SS400
[補助部材]			
横鋼線	C-100x50x20x2.3	GPL-4.5 Bolt:2-M12 φ600	SSC400
wB1	□-100x100x4.5	GPL-6.0 HTB:2-M16	STKR400

3 ピン接合梁継手リスト

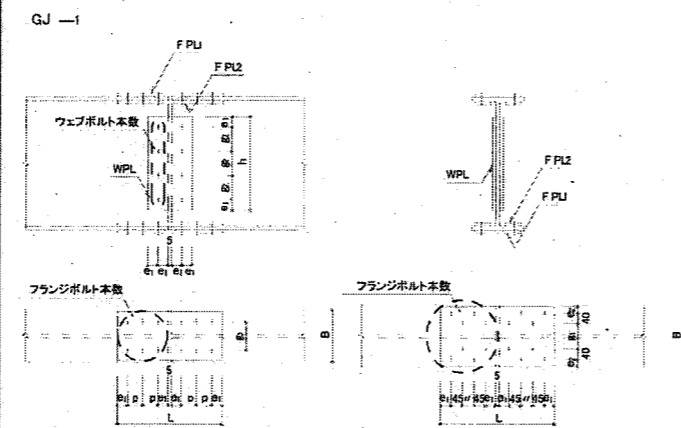
片持ち梁に連続梁接合とする小梁接合部分は剛接合とする。



BJ-1 符号	部材	ボルト径	本数	GPL厚	ウェブ厚 WPL	備考
RB1	H-250x125x6x9	M20	3	6		
RB2	H-150x75x5x7	M16	2	6		ボルトは横打ち
RB3	L-75x75x6	M16	2	6		
RCB2	H-200x100x5.5x8	M16	2	6		ボルトは横打ち
2B1	H-200x100x5.5x8	M16	2	6		
2B2	H-150x75x5x7	M16	2	6		ボルトは横打ち

BJ-2 符号	部材	ボルト径	本数	GPL厚	ウェブ厚 WPL	備考

4 剛接合梁継手リスト (特記なき限り、フランジ、ウェブとも両面はダブルとする)

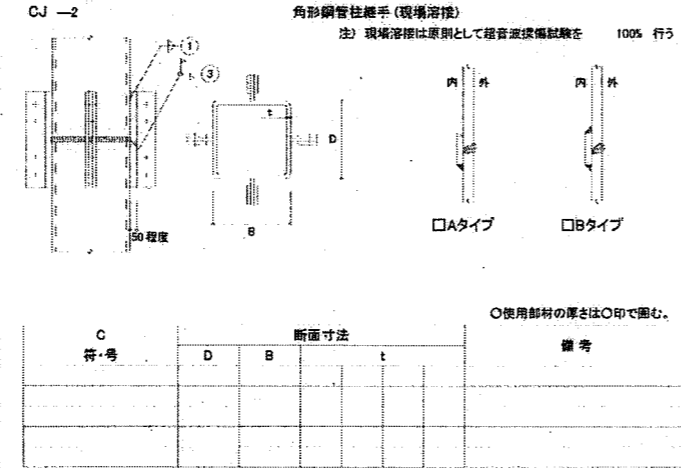


共通事項

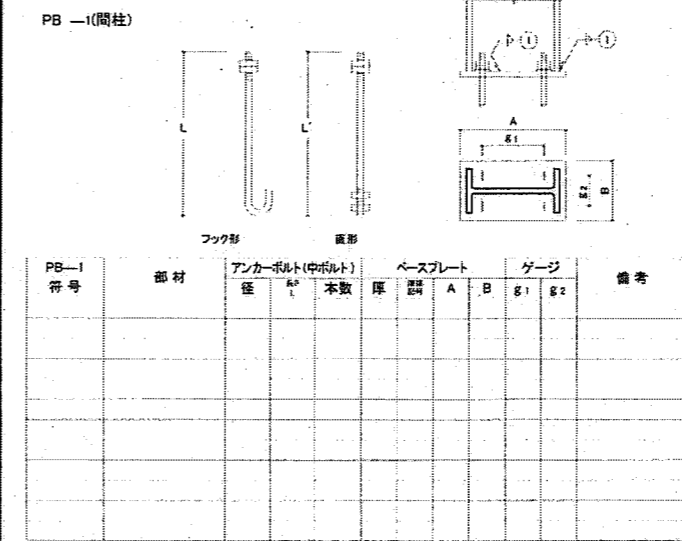
フランジ幅	フランジ幅 (B)			フランジ幅長 (L) mm						
	ボルト列	FPL1	FPL2	ボルト径	ボルト列	4本	6本	8本	10本	12本
100	シングル	100	-	M16	シングル	290	410	530		
125	"	125	-	M20	シングル	290	410	530		
150	"	150	55	M20	チドリ(D)			440	530	620(410)
175	"	175	65	M22	シングル	280	410	530		
200	"	200	70	M22	チドリ(D)			440	530	620(410)
250	"	250	95							
300	チドリ	300	105							
350	ダブル	350	136							
400	"	400	165							

GJ-1 符号	部材	ボルト径	フランジウェブ	ボルト本数	ゲージ	フランジ幅	ウェブ幅	ウェブ厚	ウェブボルト本数	備考		
RG1	H-340x250x9x14	M20	8	3x2	150	80	12	12	9	200	290	SS400
RG2	H-250x125x6x9	M16	6	2x2	75	90	12	-	6	170	290	SN400
RG3	H-250x125x6x9	M16	6	2x2	75	90	12	-	6	170	290	SN400
RG4	H-250x125x6x9	M16	6	2x2	75	90	12	-	6	170	290	SN400
RCB2	H-200x100x5.5x8	M16	4	2x1	60	60	16	-	6	140	170	SN400
2G1	H-250x125x6x9	M16	6	2x2	75	90	12	-	6	170	290	SN400

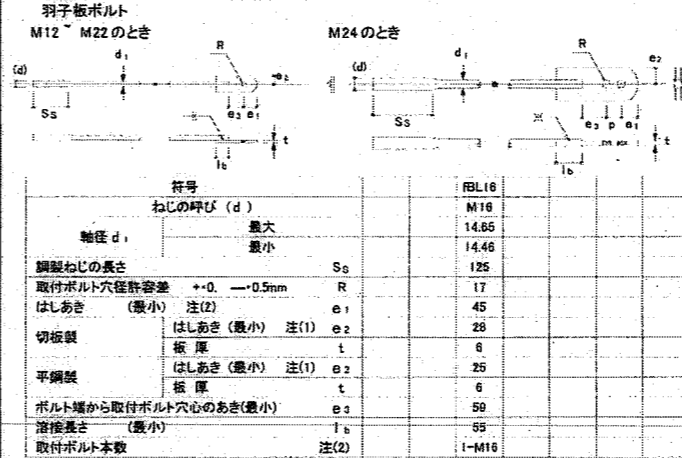
5 角形鋼管



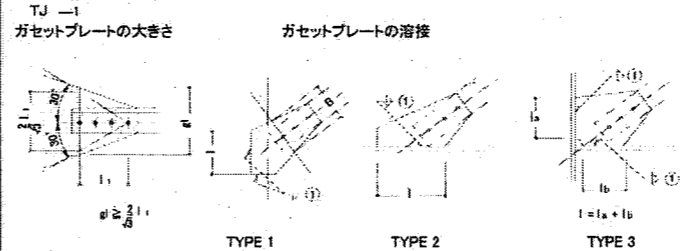
6 H形鋼柱脚(ピン)



7 丸鋼ブレース (JIS 規格品とする... JIS A 5540 5542)

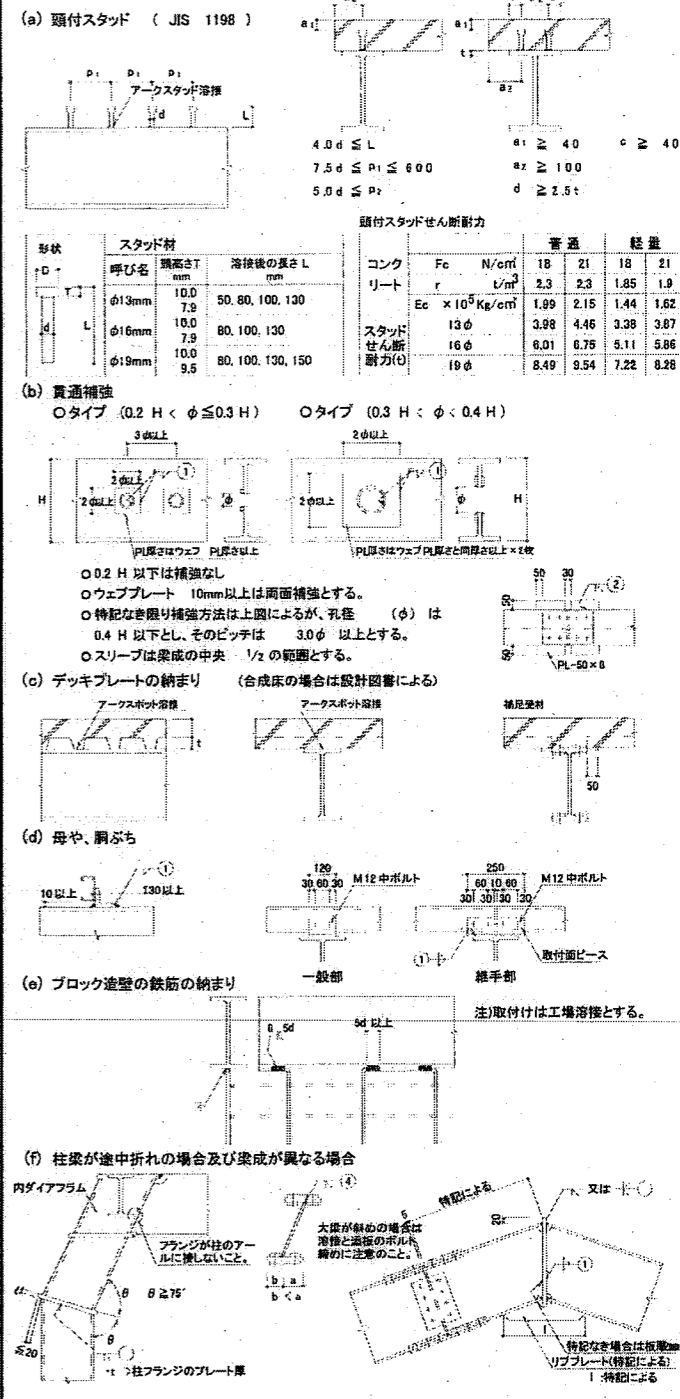


8 平鋼・山形鋼ブレース



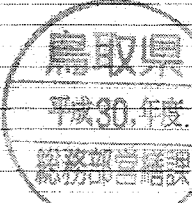
TJ-1 符号	部材	高力ボルト本数・径	ガセットプレート			溶接長さ	mm	サイズ	備考
			TYPE 1	TYPE 2	TYPE 3				

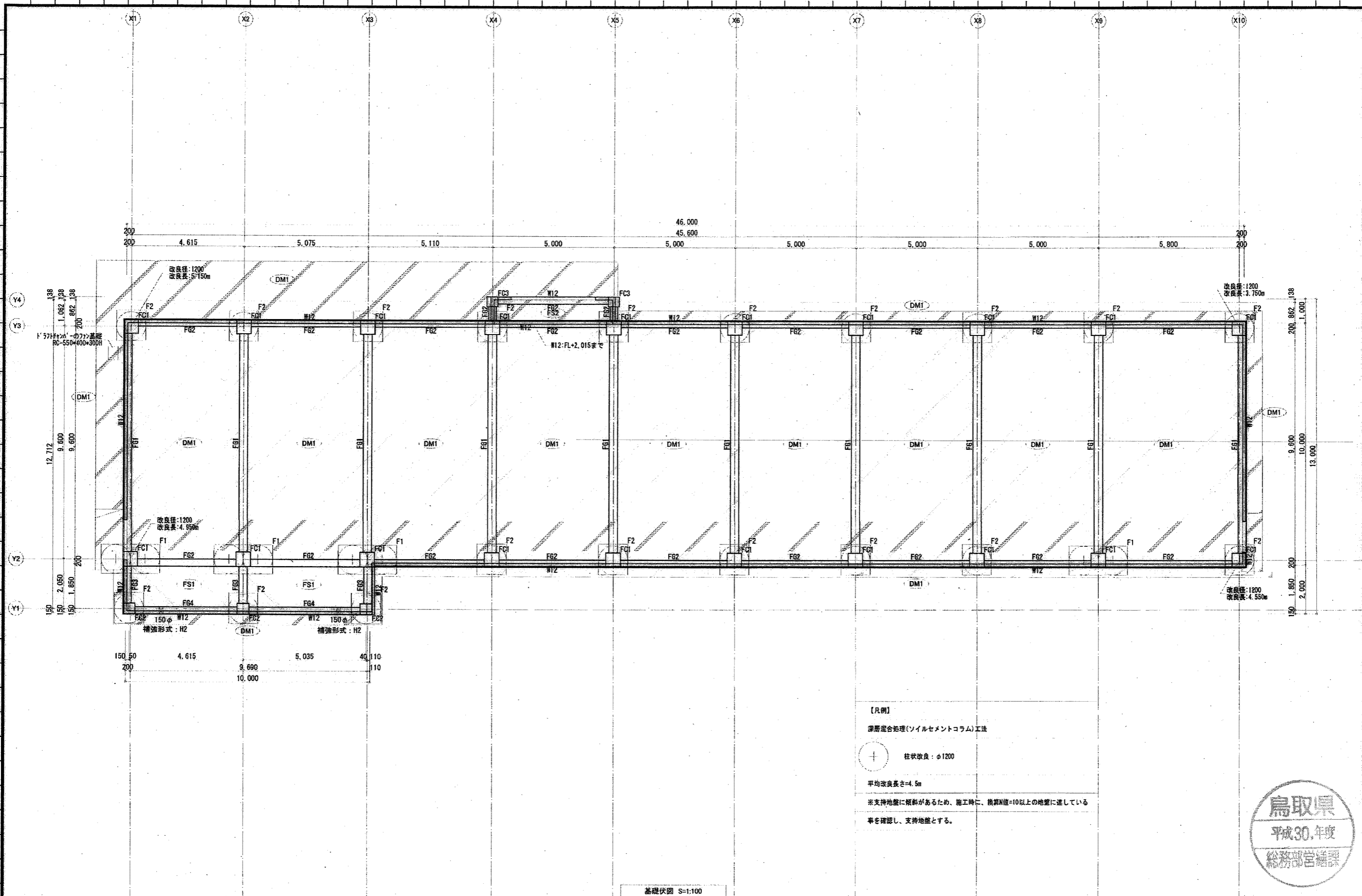
9 その他



溶接部メッキ施工部分 塗り下接続部、特殊ガスボンベ置き場、配管支持鋼材
 溶接部メッキ施工 A種 (HDZ55) 最小板厚6mm以上の形鋼、鋼板
 B種 (HDZ45) 最小板厚3.2mm以上6.0mm未満の形鋼、鋼板
 C種 (HDZ35) 最小板厚1.6mm以上3.2mm未満の形鋼、鋼板、ボルト・ナット

工事名称	畜産試験場と牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号	-
図面名称	鉄骨断面リスト	図面番号	S-14





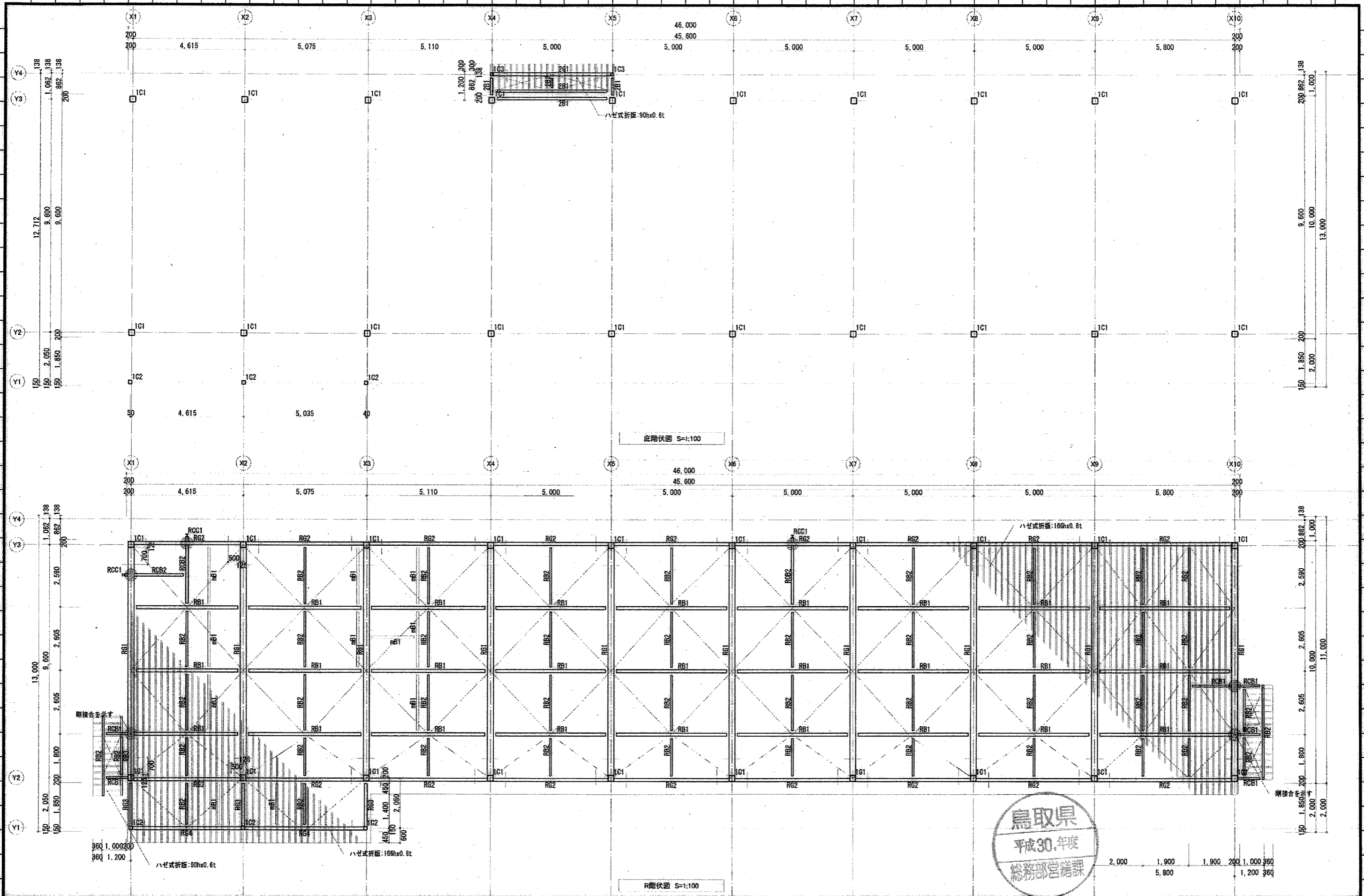
基礎伏図 S=1:100

【凡例】
 深層混合処理(ソイルセメントコラム)工法
 柱状改良: φ1200
 平均改良長さ=4.5m
 ※支持地盤に傾斜があるため、施工時に、換算N値=10以上の地盤に達している事を確認し、支持地盤とする。

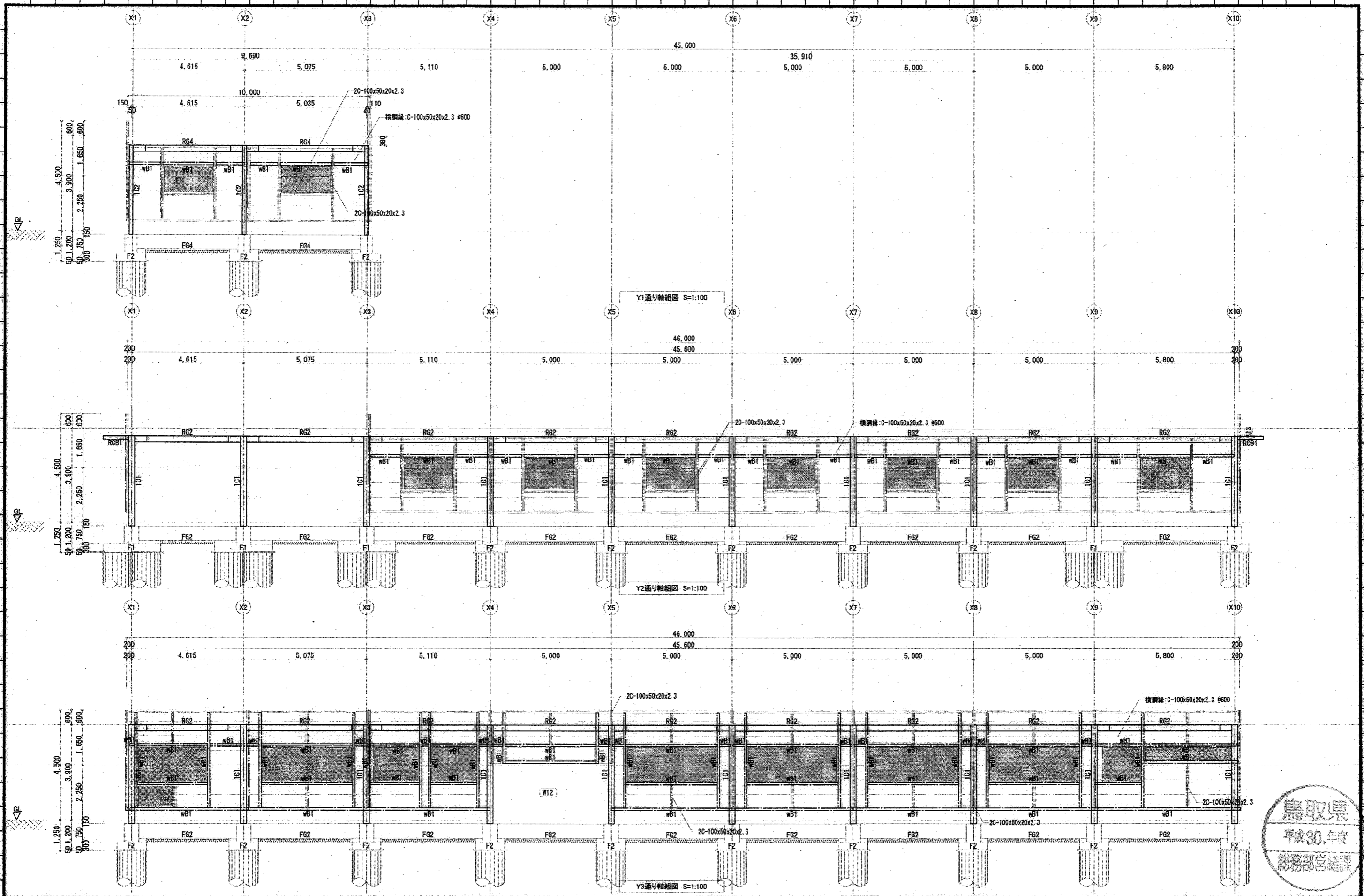


工事名称 畜産試験場和牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号 -
図面名称 基礎伏図 (縮尺)	図面番号 S-15

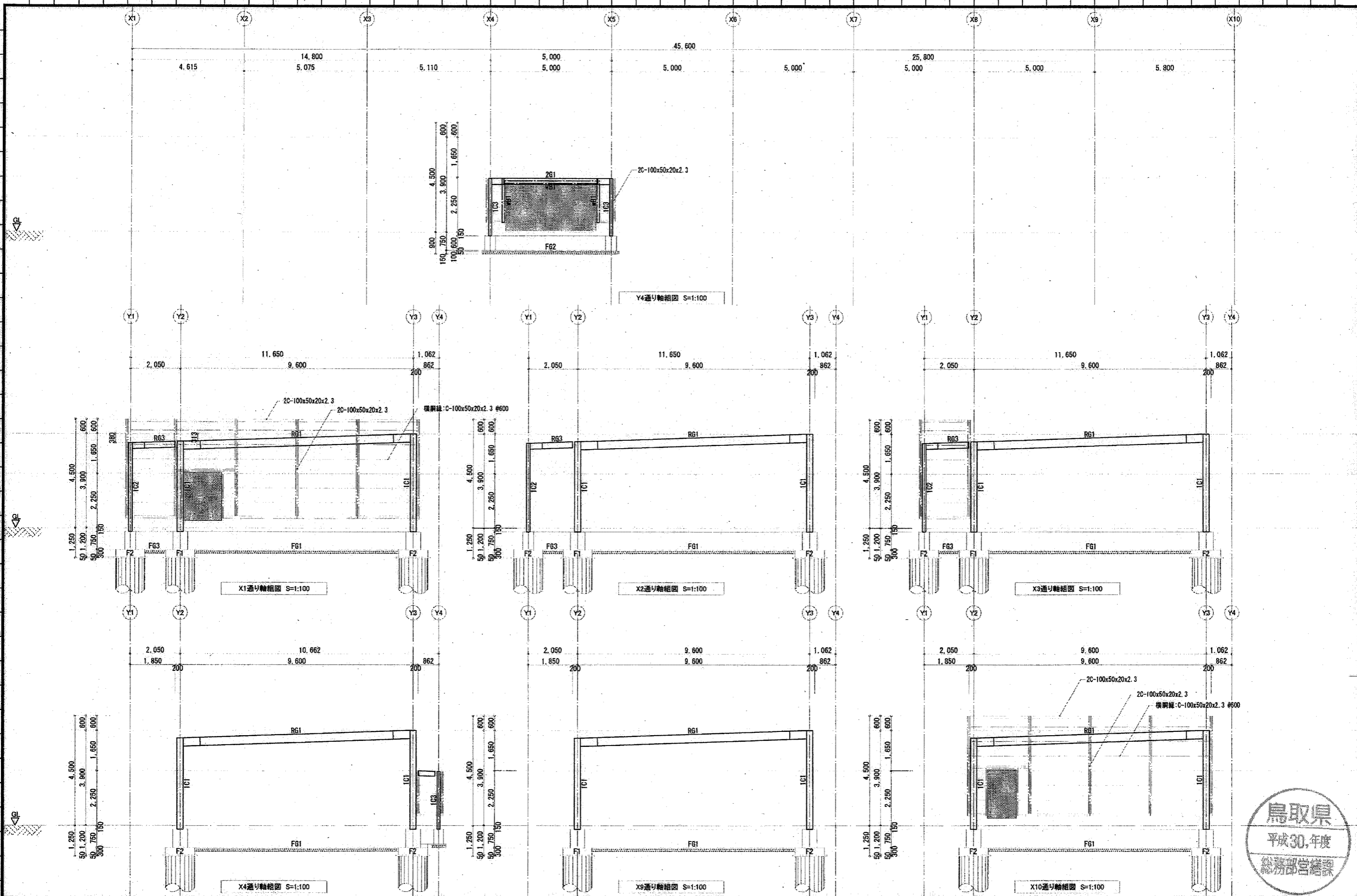
S=1/100
(A3:1/150)



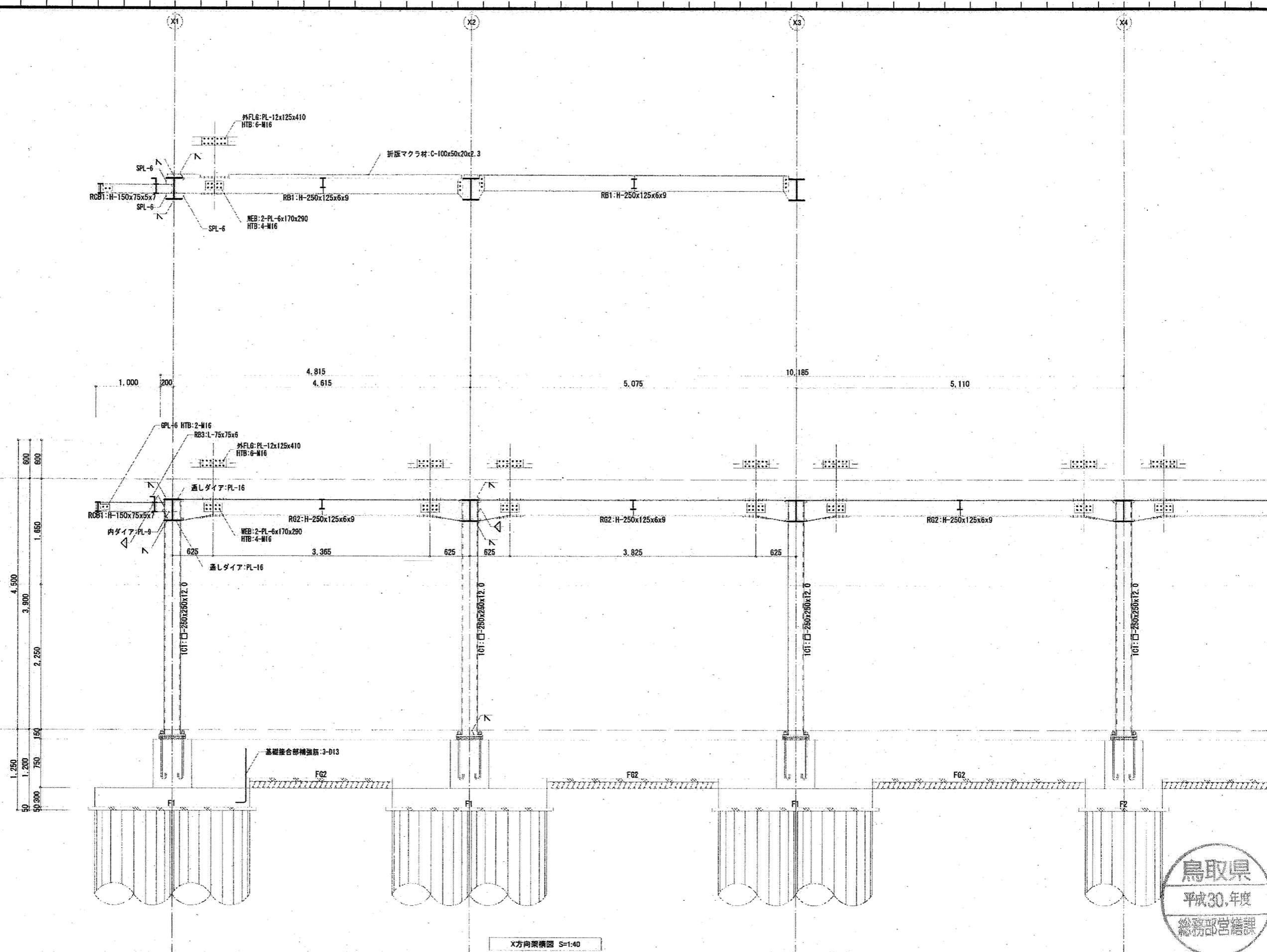
工事名称	畜産試験場和牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号	
図面名称	鉄骨伏図	図面番号	S-16
(縮尺)	S=1/100 (A3:1/150)		



工事名称 畜産試験場和牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号 -
図面名称 軸組図-1 (縮尺)	図面番号 S-17
S=1/100 (A3:1/150)	



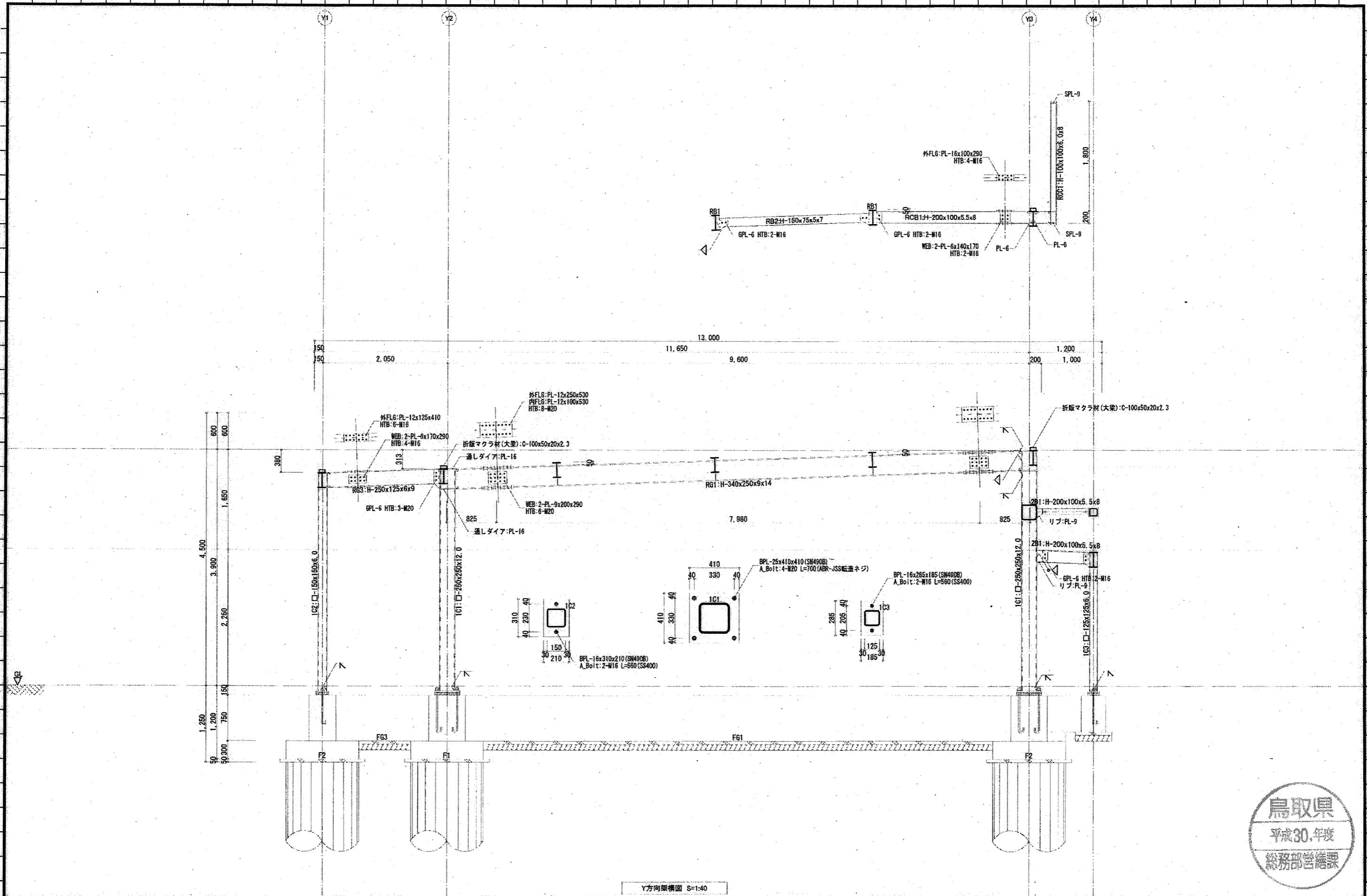
工事名称 畜産試験場和牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号 -
図面名称 (縮尺) 軸組図-2	図面番号 S-18
S=1/100 (A3:1/150)	



鳥取県
平成30年度
総務部宮備課

工事名称	畜産試験場和牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号	-
図面名称 (縮尺)	架構図-1	図面番号	S-19
		S=1/40 (A3:1/60)	

X方向架構図 S=1/40



Y方向架構図 S=1/40



工事名称 畜産試験場和牛改良試験研究棟新築工事(建築)	設計番号 -
図面名称 架構図-2 (縮尺)	図面番号 S-20
S=1/40 (A3:1/60)	